

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
360	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Longitudinal trends in hospital admissions with co-occurring alcohol/drug diagnoses, 1994-2002. アルコールおよび薬物の同時中毒のための入院に関する 1994-2002 間の縦断的傾向の研究	
<b>執筆者</b>	
Santora PB, Hutton HE	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Subst Abuse Treat. 2008 Jul;35(1):1-12.	
<b>キーワード</b>	
アルコール・薬物同時中毒、縦断的研究、長期研究	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> アルコールおよび薬物の同時中毒のための入院に関する 1994-2002 間の縦断的傾向を求める。</p> <p><b>方法：</b> 本観察研究ではアルコール・薬物同時中毒のため入院した 43,073 人を対象に 1994-2002 間の縦断的傾向を調べ、有病率と保険の種類毎の入院費と乱用薬物を調査した。</p> <p><b>結果：</b> 主として 4 種類の薬物乱用があった。49%の例に 2 種類以上の薬物乱用があり、25%ではアルコール単独、11.8%はオピオイド系薬物単独、6.5%ではコカイン単独の乱用であった。この間の入院費増加は 2 種類以上の薬物乱用があると有意に高かった(1,270 万ドルから 2,780 万ドルへ 119%、1,510 万ドル増加)。アルコールの場合(900 万ドルから 1,980 万ドルへ 120%、1,080 万ドル増加)、オピオイドの場合 (170 万ドルから 990 万ドルへ 482%、820 万ドル増加)。メディケイド/メディケア保険が全入院件数の 70%を占め、また全入院費の 70% を占めた。メディケイド/メディケア保険または無保険の入院では違法薬物使用がより頻繁であり、他方会社保険ではアルコール乱用がより頻繁であった。</p> <p><b>結論：</b> アルコール・薬物中毒の全容と費用負担について調査する際、アルコール・薬物同時中毒入院について考慮する必要がある。</p>	